

プレマナンダジ講話

記：丸岡汪行

第1話 色水かけ祭り（2019/3/23）

色水かけ祭り(ホーリー)の意味

皆が自由で平等ということを出すために、性別、年齢、国籍、身分、職業、考え方等、一切の区別無しに、全ての社会的活動は休んで、無礼講で様々な色の水をかけあって、普段と違う色々な食べ物を楽めます。人々は、多様性を持っていますが、多様性の皆が一つになるという精神的な意味があります。

もう一つの側面

天国の神々をはじめ3つの国を征服した悪魔(ヒランニヤカシブ：ハムサナンダジ講話参照)がいました。エゴやプライドが強く自分は全てである、自分は神であると思い込み、皆に自分を称えるように求めました。

この悪魔に、プラフラダという名の息子がいました。この息子は幼いころから神に対するヴィジョンを持っていて、神は全知全能で、あらゆるところに遍在していることがわかっていました。ですから彼は、父親に「あなたは神ではない、神は他にいる」といつも父親とは相いれず、「ナラーヤナ」と唱え続けていました。

悪魔である父親は、自分以外に神があると主張する息子に腹を立て、殺そうとしましたが、できませんでした。毒を飲ませると毒はネクター(神々の飲む不老長寿の赤色の酒)になり、山から突き落とされても何も起こらず、プラフラダはいつも神を思って祈っていましたので、いつも神に助けられました。海に突き落とされても、毒蛇にかませても、死にませんでした。悪魔は、火の中に入っても大丈夫な妹のホーリカにプラフラダを焼き殺すように頼みました。ホーリカはプラフラダを抱いて火の中に飛び込みました。奇跡が起きて、ホーリカが死んでプラフラダは助かりました。

ホーリーの前(前夜祭)に、大きな焚火を燃やして、全ての悪が焼き尽くされるように祈ります。(悪魔を焼き尽くした後に皆で楽しむためです。)

最初は灰をかけるだけでしたが、時代とともに色水に代わってきて、インド中に広まっています。

ホリデイ(休日)の始まり、皆の喜びの日、ホーリーデイ(神聖な日)です。

第2話 ヨーガ・ヴァシスタ講話（2019/3/24）

究極の真理

始めのお祈り：聖者ヴァシスタ、究極の真理にお祈りします。

ヴァシスタとは偉大な聖者です。最高峰の哲学です。

正しいものの見方とはどのようにして見るのでしょうか？

私たちは物事を見ている、正しく見ていません。ですから私たちの中にはいつも疑いがあります。私たちは子供のころから死に至るまで、限られた知識でたくさんの疑問を抱えて混乱しています。ですから哲学の先生は、正しく、それも疑いのないようなものの見方を教えてください。

例えば、これは何ですか？ そう葉です。又牛が描かれています、緑もあります。これが私たちのものの見方です。一つの物に対して人それぞれの見方です。これを紙と見た人はいませんか？ 哲学は全体をとらえて疑いのないものの見方を教えてください。

ヴァシスタという聖者は弟子のラーマに正しいものの見方(インドの最高峰の哲学)を教えました。それはこの世界は神以外のものは存在せず、全てが神であるということです。

私たちの目に見える世界、見えない世界、知っている世界、知らない世界、全ての源である究極の神、究極の真理に対してお祈りをします。

この究極の真理には、3つの側面があります。見る人(主体 seer, doer, eater)、見ること(行為・プロセス seeing, doing, eating)、見られるもの(対象物 seen, done, eaten)です。全ての世界はこの3つからできています。この究極の真理から、至福・空・火・水・土他全てが生まれています。

究極の真理は初めに音として顕れました。音の神と言います。エネルギーの最初の顕現は音であり、このおかげで私たちは話ができて、コミュニケーションがとれます。これら全てに感謝して、授業を始めます。

熟考

ウッダラカという聖者のお話です。子供のころから霊性の道を求め、一人で森に出かけ、洞窟に入って瞑想をしました。

瞑想は簡単ではありません。目を閉じると心が動き出し、一つのところに留まりません、ですから心をコントロールする必要があります。心が一つの考えに留まって動かなくなった時に、それを瞑想と呼びます。

私たちの心は、同じ所に留まってははいませんが、なぜそうなのかを知る必要があります。それが哲学です。それを知る一つの方法は偉大な聖者の話を聞くことです。そのあと熟考して深めることです。心を集中して教えられたことを思い出し、その意味を考え、自分の心で考え直すことです。そして受け入れることです。何度も繰り返さないと受け入れられません。

これが一番早い方法ですが心が落ち着かないであちこち行くため、同時に難しい方法です。

心をコントロールするのに自分に適した方法を身につけること、チャンティング、マントラ、キルタン、アラティ、ラージャ・ヨガ、呼吸法等、心が一番喜ぶものを与える。

普通の人には自分の身体が一番好きです。

生きることは呼吸をしていることだと思っています。

心にこれを与えると静まります。(心を落ち着けて集中するために、呼吸に意識を向け続けます。)

ウッダラカは洞窟の中で師から教わったことを繰り返し、繰り返し、熟考しました。何度も何度も、心があちこち動き、失敗しましたが、根気よく続けました。

【ヴェーダンタ修行の3つの段階】

①ヒアリング: (Sravana シュラヴァナ)
グルによる真実の精神的な知恵を聞く。

②振り返り・熟考: (Manana マナナ)
グル・聖典の教えを注意深く繰り返し学び、教えを深め受け入れる。

③深い瞑想: (Nididhyasana ニディディヤーサナ)
深遠な深い瞑想を通じて真実に目覚める。

～参考: 熟考の方法～

私とは？

私は何ものか？ 私はどこにいるのか？

ウッダラカは、身体を分析しましたが、身体は私ではありません。感覚器官、心、知性、潜在意識(チッタ)、だんだん高い存在について、分析・熟考しました。

さらに奥に行って“私”はどこに？ しかし、“私”を見つけることができません。

“私”はいつも変わっています。ある時は身体であり、ある時は心であり、ある時は知性です、私はたくさんの偽物のIDカードを持って、その都度使い分けています。ですが、これらの私は、本当の“私”ではありません。偽物で危険な私です。

「“私”と思っているものはどこにも存在していない」というのが彼の結論です。“私”と思っているのは、影の様なもので、何か、ただ映っているもの、投影されているもの、ロープが蛇に見えるようなもの、というのが彼の結論です。

では、この“私”というのはどこから来るのでしょうか？これが本題です。

ウッパッサマ: バランスの取れた状態に戻る: が主題です。

【Upasama: 静寂の始まり、安堵、緩和、停止、リラクゼーション、中止、心の静穏、落ち着き、辛抱強さ】

欲望、エゴ、考え等とは何か？

また、それが来た源は何か？ということがテーマです。

【敵は何ですか？に時間と答えた後のジョーク】

シーク教の人が川縁に座っていました。何をしているのかと聞くと「敵と戦っている、時と戦っている Killing Time Keeping Time.」と答えました。

彼は、これらは現実のものではないと言います。真実とはこれらのものを超越して存在します。

自分にとって本当の“敵”とは何でしょう？

身体の敵、心にとっての敵、きちんと知りましょう。

肉体の敵は、時間、病気等たくさんありますが、魂は不滅です。

彼、ウッダラカは 真剣に考え、私たちが見るもの、心で考えるものは何であれ、それには限界があることに気付きました。

五感を使って私たちが感じ取るものは、どんなものであれ、五大元素だけであって粗雑なものに制限されています。全てに限界があります。

しかし、真実には限界はありません。真実は無限で、永遠です。

この制限のある身体では、真実は捉えられません。

私が捉えるものには、私という制限がついています。間違っただけしか捉えることしかできません。

ですから真実を捉えるには、私という枠を超えねばなりません。

私は真理をわからない。私を超えた時に理解します。

『Tat Tvam Asi. あなたはあれである。』 最高の言葉です。“あれ”とは究極の真理のことです。

これすらも言葉です。言葉で表すことはできません。真理は表現を超えたところにあります。

理解を超えたものを理解しようとしているのですから体験しかありません。とても繊細なことです。

深く、深く、考え続けていくと心が自然に止まります。

第3話 ヨーガ・ヴァシスタ講話 (2019/3/25)

静寂

ウッダラカは洞窟で自分に問い続けました。

自分は誰か？ どんな存在なのか？どこから来たのか？

私と思っていたのは何もありませんでした。身体が減んでも私は死んでいない。

心も知性も私ではない。「～ではない、～ではない」を繰り返してゆく。話すことも私ではない。最後に残るものは沈黙です。静寂は真実です。この静寂こそが私自身です。

もしこれら対象物の全てが自分でないとしたら、知っているということ、気付き、知識だけが残る、そこには欲望などというものは存在しえません。究極の知識が本当の私です。

欲望の原因

では、欲望はどこから来るのでしょうか？これは自分で作り出したものと思えません。本当の私は欲望を超越したところにあるのに、どうして欲望が私にタッチしうるのでしょうか？

彼は、欲望について語っています。

真摯な求道者は全ての欲望を手放さなければなりません。欲望は自分を縛り、苦しみの元になるからです。人生の行動の裏には欲望があり、欲望には限りがないので満たせば満たすほど強くなります。ですから欲望を満たすことは人生の無駄使い、悪循環で、何もかも得られません。本当の満たされた幸せを得るためには、全ての欲望をあきらめなければなりません。

欲望を破壊するためには、それがどこから、どうやって来たのかを知る必要があります。

彼は言っています。私がこの欲望を作り出したのではありません。でも私の知性、心、感覚器官、これらのものが欲望の原因になっています。

真実の“私”が、究極の影として反映された時、これが潜在意識となって、感覚器官、心、知性が間違えて欲望を

作り出します。

本当の“私”でない偽物を、私だと思い込んでしまいます。偽物の私は単なる映し出された影にすぎません。

例：無垢な子供に鏡を与えると子供は鏡に映った自分と遊びます。犬は鏡のなかの犬に(反映)に向かって吠えます。鳥は鏡に向かって嘴でつつきます。

これは無知のせいです。そして、たくさんの欲望を作り出します。感覚器官、心、知性がこれを助けます。これが欲望の原因です。

子供が自分の影をお化けと間違えて追いかかおうとするように、多くの人は感覚器官、心、知性を使って欲望を満たそうとし、人生の時間を無駄使いしています。

何もないところから誤解によって生まれたのが欲望です。本当の“私”とは無縁のものです。

この真実を正しく理解でき、きちんと受け入れることができれば、あなたは全ての欲望を破壊することができます。

これがウッダラカの結論です。彼は自分で問いを発し、自分で答えました。これが質問するということです。正しい質問はその答えを与える(答えがわかっている)ということです。

私たちは、起きている状態の時、感覚器官や心や知性を使って、外の対象物を見、間違った私という意識を持っています。まるで、間違った私がギャング(暴力団)の親分で、感覚器官や心や知性が組員の一人です。

聖典には、究極の真実は何ものにも影響されないと書かれています。本当の“私”は無関係です。

起きている時は、感覚器官や心や知性が働いているので、偽物の私が意識され、本当の“私”から見たら、まるで夢を見ているようなものです。

真実の私

では、あなたは誰ですか？起きている時の友達が現実だとすれば、夢の中の友達は現実ではありません。

本当の“私”から見ると、起きている時の私は感覚器官、心、知性が働いて偽物の私を意識しているので、本当の“私”ではありません。

あなたは手や足や感覚器官や心や知性などを村人とする村の村長さん(ギャングの一人)、みたいなもの、間違った私です。村人もあなたも皆、間違った思い込みをしています。

本当のあなたは、この一人とは関係のない存在です。

ウッダラカは「この一人が、この世界で何か良いことをしたり、悪いことをしたりしても、夢だから気にしない。これは、私には関係のないことだ。」と言いました。

夢の中で敵を殺したとして、あなたは殺人罪になって罰を受けますか？夢だから無罪です。同じように、真実の“私”に目覚めた人にとって、この世界で身体や心や感覚器官がすることは、一切何の関係もありません。

罪人でも善人でもありません。(肉体が)生まれることも死ぬことも関係ありません。

受け入れられますか？深く考えてゆけば、受け入れられるようになります。

昨年行った誕生パーティーも間違い(夢)です。笑【前夜、3月生まれの人の誕生会を催していただきました。】夢の中で楽しただけです。

夢を思った通りに作れますか？夢は作れません、勝手に起こります。

ですから本当の“私”を悟った人にとっては、夢の中(この世界)で起きていることは、関係のないことです。

究極の意識にとって生と死は何ものでもありません。

真実を体験として見れば、心で作られたものに、一切恐怖はありません。

身体を自分だと思っている時には、永遠に生きたいと願って、死を恐れます。無知があつて物事がはつきり見え

ない時に、私たちは恐れを抱きます。無知の原因は恐れです。
暗いところで何かを見た時、それについて無知がある時に恐れを感じます。

一元論

ヴェーダに書かれています。二つがあれば比較が生じて、そこに恐れが生じます。
小さいものは大きなものを恐れ、大きなものは(明日になれば、相手が大きく成長するかもしれない)小さなものを恐れます。

一つだけなら比較はありません。恐れるものはありません。究極の真実に至れば、真実の一つです。恐れはありません。恐れは無知です。

究極の真実は生死を超越しています。究極の意識は全ての命に浸透していて、全てを超えていて、恐れはありません。

究極の意識は、全てに行き渡って、全てを知り尽くし、永遠に存在し、あらゆる力がある存在です。ですからどんな欲望も必要ありません。

そもそも欲望とはギャングが作り出したもので、無知で頭が悪く、気付きもなく、自分を不完全と思い込んでいるので、欲望を作り出すのです。スーパーマーケットのオーナーなら、全て満たされているので何も欲しがりません。

必要は発明の母と言います。何かを満たされない時に何かを欲しがって発明するのです。

感覚器官・心・知性は、自分でできることは限られていて、全てが満たされているわけではなく、知っていることも限られていると思っているので、この不完全さを満たそうとして欲望を生み出します。

心の産物

この世界は真理が反映された世界です。この世界は心の想像の産物です。

輪廻転生の誕生も死も心の産物です。心はないものをあると思っています。

例えば幽霊がいると思っています。幽霊を殺そうと思っても、居ないものは殺せません。ないものに対する欲望ですので、欲望が満たされることは永遠にありません。蜃気楼のオアシスで水を飲もうとするようなものです。

心を使わないで、何かを話したり、見たり、聞いたり何かをできますか？心なしでは何もできません。
心をとってしまったらこの世界はなくなります、つまり心が世界を作っています心が世界なのです。

アンバランス

心は全て想像の産物です。想像というのは波動です。波動があるということはアンバランスがあるということです。つまり不均衡が原因です。

この生と死、この人生は単なる想像です、欲望は不純なもので、究極の真理とは相いれないもの、真理は一つです。二つある時は混ざって不純です。

簡単な例：湖面が静かに鏡のように波一つなく澄み渡っています。バランスの取れた状態です。波動はありません。
ここに小石を一つ投げ入れます、波が起き(アンバランス)、岸で反射し、波が波を生みます。

心の波動(思考の流れ)も同じように作られています。海や湖の波は空気の動き(風)によって作られます。

同じように、心は大気(プラーナ)の動きで波動(思考)を作ります。プラーナはエネルギー即ちアンバランスです。プラーナは、同時に身体に活動力を与えます。つまり生きているということです。プラーナがなくなれば身体は動きません。つまり死です。

【補足】

本当には無い(存在しない)もの(宇宙:ここでいう幽霊=心の想像の産物)をどうこう(殺し)したいというのが欲望です。無いものが対象ですから、この欲望は永遠に満たされません。存在するもの、すなわち永遠の真実を知りたいという欲望は満たされます。

プラーナは空間で振動します。
例えば、脳は多孔質です。プラーナが脳の空間の中で振動したのが思考です。この思考は波のように、あなたが生きて
いる間中、続きます。
もうおわかりですね？どうやって心をコントロールできるかを。
息を止めれば思考も止まります。ヨガスートラでプラーナヤーマ
を教えている所以です。

心のないところにはプラーナもありません。全体像、欲望の
起源、自分はだれか、ギャングとは何か、究極の真実とは
バランスの取れた状態、心とは何か、生死は心が作った想像
であることに気が付くまで繰り返します。心の入り込む余地も
なく、です。

肉体があると思っている人には、肉体がないこともついて回り
ます。

肉体の存在がないことに気が付けば(心の想像の産物だと)、有無そのものはありません。
完全なる存在は、存在そのものに惑わされません。

まとめ

愚か者は、身体が自分だと思っているので、自分がここに存在していると思い、死を恐れます。自分が限られた
存在で、不完全という思いから、欲望を作り出し、これを満たそうと人生を無駄に過ごし、永久に輪廻転生を繰り
返します。究極の知識は、欲望も、恐れも、身体も、生死もなく、永遠の至福だけです。

第4話 “私という感覚”は、思い込み、私は虚像 (2019/3/26)

私という感覚はどうやって作られているか？

昨日は、エゴまた私はだれか？というお話をしました。

身体や、心の中や、感覚器官の中に私は見つかりません。自分が身体であると思えば、輪廻転生にはまってい
まいます。

ここで、私という感覚・考えはどこから来るのか？

これはエゴによるものなのか？心によるものなのか？又は、何かが集まった一塊のものによるものなのか？

どうやって作られているか という疑問がわきます。

私とはどのようにして作られているか？

心やエゴは私ではないと、彼ウッダラカは言いました。なぜならこの二つが、私であるということを証明する手段
はないことがわかったからです。(補足:存在しないものの存在は証明できない)

心はいつも問題を起こしているのに、どうして適正なやり方で、心の存在を証明することができないのでしょうか？

心は存在しない

分析を進めてゆくと心は存在しないことがわかります。

心というのは思考が集まったものです。波のような思考の流れが心です。流れがあるということは、バランスが
取れていないということです。アンバランスによるエネルギーの流れが思考、即ち心です。

アンバランスの状態の時に、バランスの取れた状態は見つかりません。

なぜなら、闇というのは光の不在によるものですから、光の下では闇は見つからないのと同じように、アンバ
ランスというのはバランスの取れた状態が不在ということです。

【笑い話】

チマーラナンダジがギターへの解説講義で、
クリシュナは牛(聖典)のミルク(知識)を絞る
人(ドゥグダン:サンスクリット語でミルクマ
ン、ヒンディ語では二頭のロバ:話のわから
ない人の意味)で、絞ったミルクをアルジュ
ナ(カップ)に与え、聴衆はそのエッセンス(ミ
ルク)を楽しむ人、という話をされました。

質問時間に、ある人が「二頭のロバ(愚か
者)はどこから来たのかがわかりません」
と質問し、チマーラナンダジは「一頭は私で、
もう一頭はあなたのことです」と答え、爆笑
を買いました。教えるほうも聴いている方
も愚か者だということです。

ですから、アンバランスではバランスが取れた状態は見つかりません。
つまり思考があるというアンバランスの状態では、思考のないバランスの取れた状態(つまり心のない状態)は見つからないということです。

別の言い方をすれば、アンバランスな状態が心を作り出しているということです。
このように、分析を深め、論理を進めてゆくと心の存在は、間違ったIDです。

エゴも存在しない

エゴというのも間違ったIDです。間違ったIDというものは証明できません。
正しく見れば、心もエゴも存在しないということです。

暗闇も正しく見ればどう見えるでしょう？

暗闇では光は見えません。見るためには光が必要です。暗闇を見るために明かりをかざして見よう(証明しよう)とすれば、暗闇はなくなります。同じように心やエゴの存在を証明することはできません。存在しないものは証明できません。

私は存在しない

感覚器官の対象物、音、匂い、物、色、味はどうやって作られているのでしょうか？(エゴとか心の存在を支持しているのでしょうか?)

対象物も私が作っているのではないと彼は言います。

石を蹴ったら石が文句を言いますか？命のない、意識のない石は文句を言いません。命のない状態と言います。石には私という意識(アウェアネス・気付き)、エゴとか心というものはありません。

対象物も私ではありませんので、この私という意識には何も支持するもの(考え方)がありません、私もエゴも心も存在し得ません。そしてそれを証明する手段もないということがわかります。

この私という感覚は何ものでもなく単なる勘違い、蜃気楼のようなもので、対象物にも意識はなく私を支えるべきものは何もなく、その存在を証明することもできません。

この考えを彼は一つ一つ見てゆき、この身体は肉と血液にしかすぎず、きちんと分析すれば心は存在せず、チッタやエゴもそれ自身での気付きはありません。従って私を支えるものは何もありません。

ここまでわかっていたら、どうして私は肉体と言えますか？(肉体には気付き、つまり私意識はない)

チッタ(種のようなもの)の顕れ

彼は言います。チッタ(潜在意識)とは種のようなもので、それ自身での意識はなく、条件が整った時、芽が出て木になって顕れるようにただ可能性があるだけのものです。チッタ(潜在意識)の可能性とは、心から得られた印象(記憶・情報)の倉庫のようなものです。

条件が整った時、印象が心を通じて思考となって対象物をたくさん作り出し、この目に見える世界に顕れてきます。

木というのは、葉、枝、花、実、根、幹等の集まりです。同じようにこの世界も色々なもの、形や名前のあるもの、感覚器官の対象物、音、匂い、味、思考等からでき上がっています。

つまりチッタ、潜在意識がこの世界、この身体の原因になっています。

私たちは、この世界が現実だと思っています。

私たちが何かをやっているから、目に見えるから、感覚器官で接触できるから、実在のように見えるからという理由で、この世界は本当にあると言えるのでしょうか？

この世界が木とすると、潜在意識の中に気付き(アウェアネス:意識)があるのでしょうか？

木という記憶(潜在意識)が、ある一定の条件になったと気付いて木になると考えれば、チッタ(潜在意識)に気付き(意識)があることになりませんが、そうでしょうか？

単なる反射<反映>です

(鏡に太陽を反射させて、)この鏡に光があるのでしょうか？この光はどこから来ているのでしょうか？
(手で頭を掻いた時、)手にアウェアネスがあるのでしょうか？手は心から借りているだけです。
チッタには意識があるように見えているだけです。

心は鏡のように何でも反射しますが、自ら光を放っているのでしょうか？
光を放ってはいません。ただ反射しているだけです。

店員は物を作っているのではなくただ売っているだけです。
潜在意識、心、エゴには何の力もなかったただ映しているだけです。潜在意識、心、エゴが私(気付き・意識)を持っている訳ではありません。

「私」は存在しない、実在は神のみ

自分の意志で何か^{かた}が為されることはありません。反射だけです。私たちに自由意志はなく、私たちは操り人形のようなものです。その方(究極の真理・存在=神)が全てを行っているのです。
私と思っているものはなく、その究極の存在の中にあなたはあります。その究極のものがあなたです。
ヴァースデーヴァ(全てのものの中に存在していて、全てのものがまたその中に存在しているという意味)のシュローカ(詩節)があります。あなたはあ、同時に全てはあなたの中にある、その究極の存在はあなたのハートの中にあります。

もし、あなたが「私」と言ったら、あなたは何もわかっていません。そんなものは存在しないし、あなたの自由意志とかもありません。全てはその方の意志です。
もしあなたが自分の行動を自分が行っていると思っていたら、あなたは何もわかっていません。愚か者です。からかっているわけではありません。本当のことです。

この「私」と思っているものを全て吹き飛ばしてしまえば、神が残ります。
「私」がないということは「神」という意味です。皆さんは、全員「神」です。複数の神々(Gods)ではなく単数の神(God)です。

この唯一の神が一人ひとりのハートの中に存在しています。
皆さんのコーヒーの中に、空が映っているように、神は皆さんのハートの中に映っています。
真理(神)は最も繊細なものです。繊細なものはより粗雑なものの中に満ち溢れています。このようにして神は皆さんの中に浸透しています。
このようにして神は全てに満ち溢れています。世界は全て神そのものです。
肉体も心も対象物も、私(気付き・意識)を持つことはできないのです。ただ反射しているだけです。

活動とは何か？

手がお茶を口に運びます。口が舌を使ってお茶を食道に運びます
等々。心の命令に従って感覚器官がやっているのです。
私はどこに居るのでしょうか？私がやっているわけではありません。私はただ見ているだけです。

身体は、手や、足や、頭や、口や、目や、耳や、胃や、等々が集まった一団のもので、心というのはその代表者、村長さんのようなものです。
知性やさらに繊細な潜在意識等がリーダーとして、この活動に関係して命令を下しています。

全ての活動はこのようになされています。あなたが活動しているわけではありません。
この活動に私という感覚を持ち込まないでください。

【要約】

身体を私と思っているから、私がやっていると思います。
マーヤによってグナのバランスが崩れているから、物事が動き(活動)します。感覚器官にはそれぞれの主宰神(devata, deity)があつて、全ては神の働きです。
私という本来存在しないエゴや知性が入り込む余地はありません。

グナのバランスがとれた時には、沈黙だけが残ります。

活動(行動)の原因はアンバランスの働き

アハンカーラ(エゴ)や、ブッディ(知性)や、感覚器官が、私たちが何かをやっている、私たちは社会奉仕をやっていると言ったらそれもまた嘘になります。

ギーターでクリシュナ神が言っています。

3つのグナのバランスが崩れているから物事が動くのです。この世界の全ての動き、政治の動きであれ、個々人の行動であれ、自然の移ろいであれ、バランスの崩れです。単純です。

私(I=エゴ)が入り込む余地は、本来ありません。

私がやっていると思っている人はわかっていないだけのことです。

「私」という誤解

私(I)を把握しようとするスルリといなくなります。自分の影を捕まえることができないように、また鏡に映った自分を捕まえることができないように、写されたもの、元々存在しないものを捕まえることはできません。

「私」という誤解、思い込みがあって、私が思う、私が食べる、私が行う…等と言いますが、これは全く意味のないことです。

自然界は全て、グナによって活動しています。幻想的な力です。アンバランスな状態を作り出しています。

マーヤとも言います。真理は関与しません。

真実の私(真我は何もせず)が関与する余地はありません。

「私」が見たり、行動したりって一体どうしてできるのでしょうか？そんなことは不可能です。できません。

「私」はないのです。

もし見つけたら消(殺)してください。

真実は(二つのない)一つ

究極の結論です。いったい本当は、何が起きているのか？

肉体の中に、(お茶に空が映っているように)真実(本当の自己)が入り込んでいます。究極の真実はあらゆるものの中に行き渡っています。

あなたの、手の先にも、肩にも、背中にも、足にも、鼻にも、身体 of 全てにあなたがいます。身体という世界のどこにも、至る所に、いつも、あなたはいます。

同じように、真実(神)はこの世界の至る所に存在するのです。時間空間を超えていつも存在します。

私と言えるのは彼(神)だけです。彼は全てに存在しています。同時に彼は一つです。一つで、全てです。ですから(他のものと区別する時に私と言いますので)私という必要もありません。「私」は消えます。

意味のない問答

もし私(神)がなくなったら、どうなるでしょう？何もなくなります。この世界は動かなくなります。何も起こりません。

【参考】初心者のヴェーダントより(p82~84)

ヴェーダントでは、行動するエージェントという表現をとっています。私ではなく代理人とでもいう意味です。代理人とは本当の私(真我)ではなく、真我を反映した人という意味で、これは心(知性・エゴ)と真我の相互投影を適正に識別できていないために誤解が生じて、あるように思い込んでいる状態です。

全ての行いはアートマンの意志であると思えばそれは正しく、またブラフマンは、全ての行いから無縁であると言えばこれも正しい。

(マーヤが創造したグナのアンバランスが、動きの原因である。ブラフマンはグナを超越した存在ですが、マーヤを作り出し全てを支えています。)

【おとぎ話】

眠れないからお話をしてとせがむ孫に語って聞かせた話

婆: 山の中の洞穴にお化けが住んでいます。このお化けは昼間寝ていて、夜になると穴から出て村々に行き、起きている子供がいると、大きな袋に放り込んで洞穴に持って帰り、一人ずつ食べてしまいます。

孫: そのお化けは目が幾つあるの？

婆: 前に二つと後ろに二つ。

孫: 手は？

婆: 長〜い手が四本……。

際限なく話は続きますが、意味のない問答です。どうでもいいし、何とも言えます。

大きな複雑な問題です。
意味のない質問ですから気にしないことです。

肉体が私と思って、私という言葉を使えば、私はどんなもの？
男か女か？肌や目や髪の色は？手は？際限なく問答は続きますが、意味はありません。

この世界も同じです。意味はありません。これは手？違います皮膚です。名前は？想像で付けられました。
人生は役に立たず意味がありません！

真剣に考えてください。全てが想像だということがわかります。

あなたは日本人、マキ、聞いている人、女性、旅行者…
たくさんの名前(ID)があります。どの名前が本当ですか？

このようにたくさんの名前と形を持っていますがどれも
真実は表していません。
本当は形も名前もありません、いつも変わり続けます。
本当の名前は神です。

神の素粒子(ヒッグス粒子)というものが最近発見されました。
それに注目すると性質が変わってしまいます。神も同じ
です。
科学者たちはわかっています。変わるのは心です。
素粒子(神)が変わっているのではありません。

全ては静寂:瞑想

このことを真剣に考えれば、私も世界も、心もないことが
わかります。見ているものも、見られているものも、見る
という行いもなく、全ては静寂であり、調和が取れてい
ます。

ウッダラカと同じように分析し、これを真剣に受け入れれ
ば、誰もが、一瞬のうちに悟りを得た状態になれます。

無知は、誰の無知？誰が何を放棄するのか？

彼は、このように自分に尋ねました。

放棄した瞬間に静寂が、平和が来ると聖典に書かれています。誰が何を放棄するのか、放棄するとは何か？

ウッダラカは分析しました。最後に、放棄する人も、放棄されるものも、放棄することも何もないことがわかり、完
全な永遠な静寂が訪れます。これを瞑想と呼びます。

心もなく、思考もなく、何かをしようとする努力も、何もなく完全なる静寂です。平穏に入ります。

これが本当の瞑想です。

心が自動的に止まった時、深い瞑想が起こります、向こうからやってきます。

他のやり方もあります。

例えば神の名を唱え神にのみ集中している時や、喜びに躍り上がっている時には、自然に瞑想と同じ状態にな
ります。

究極の真理

真我というのは、言葉や表現を超えたものでこれを表す術はありません。自分が私と思っているものは、究極の
真理とは何の関係もありません。

【お話】

三人の王子様を持った王様がいました。
王子の一人は胃袋を持っていませんでしたが、いつ
も食べることや飲むことばかりを考えていました。
二人目の王子は頭がありませんでしたが、いつも考
えていました。
三人目の王子は足がありませんでしたが、いつも走
ったり散歩したりすることばかりを考えていました。

やがて王様は歳をとってきたので、どの息子に王位
を継がせるかを悩み、頭のない大臣たちと相談した
挙句、三人を旅に出して試験をすることにしました。
三人はあらゆる聖地を巡り、地球の下の聖地も巡
り、天上界の聖地も巡り、疲れ果てて木のない森に
やってきました。

水のない大きな川に差し掛かり、キャンプをして、お
腹が空いたので足のない王子が町に行き、町中の
食べ物を買ってきて、水のない川から水を汲んで料
理をして胃袋のない王子がひとりで全部食べてしま
いました。

さて三人のうちの誰に王位を継がせますか？

際限なく続く意味のない問答—この世界も同じです。

私というものを見つけることができないとすれば、何ものとの関係も見いだせないはずで、世界も心も感覚器官も肉体も、私ではありません。究極の真理へは、エゴも言語も心も何ものも近寄ることはできません。

Tat Tvam Asi

私が見つからないのであれば、全ての私を消してしまうことができれば、ウパニシャッドの有名な言葉 Tat Tvam Asi (That You are : あなたはそれである)が最も素晴らしい結論です。そしてこれは同時に沈黙でもあります。この言葉の持っている意味を深く理解する必要があります。

【参照: 初心者のためヴェーダンタ第11章~12章】

一元論(梵我一如:ブラフマンとアートマンは一つである)

私と究極の真理とは関係があるのでしょうか?

彼、ウッダラカははっきりと関係性がないと言っています。

関係があるということは二つがあるということの意味です。これとそれとは違うから、二つあって初めて関係性が出てくるのです。同じものであるということは、二つがないということですから関係性も何もありません。もし関係性があるのなら、私はあれであって、あれは私である。つまり私もあれもないことになります。

二つがあるから、一つと言うのです。カウントレス(countless)と言ったとたんに数を想定しています。

一元論とは、二つのない一つです。数の概念を超えています。現在と言ったとたん、過去と未来を意味し、時間の概念も超えています。つまり全てを超えています。

補足【一元論(非二元論)】

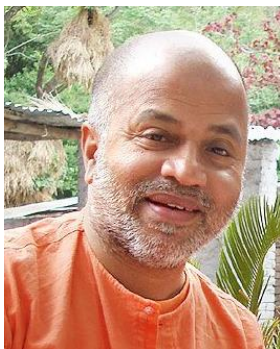
「梵我一如:ブラフマンとアートマンは同じものである。全てはブラフマンである。」が、ヴェーダンタの結論です。

一元とは、全ては一つであって他には何もないことですが、(梵我と言ったとたんに梵と我を、一と表現したとたんに二がある前提を想定するので)、二元論となります。即ち言葉にはできません。沈黙を意味します。

私たちは二元論でしか物事を理解できません。何ものかを理解するということはその対象物がそれ以外のものと異なっていてその差を明確にすることであって、暗黙の裡に二つ以上の物を想定しています。それしかないということは全てがそれなので、表現する必要もありません、即ち沈黙です。

第5話 理解すべきものは何もないということを、ゆっくり理解してゆきます。 (2019/3/26)

OM OM OM このようにチャンティングをすれば、このリズムがバランスの取れていないものを整えてこの場を浄化してくれます。マントラも同じ力を持っています。



ラーマスヴァルパナンダ(写真の人)

私(ブレマナンダジ)は彼の故郷で、彼が学生のころ、彼に会いました。彼が「私は僧侶になりたい」というので、「どうして?」と聞くと、彼は「あなたはなぜ僧侶になったのですか?」と言いました。

パンはスライスできますが水は切れません

繊細とは

5大元素は、空間、空(空気)、火、水、土の順でできました。空間が最も繊細です。できた順に、粗雑になります。繊細なものは切りとれません。粗雑になるほど切り取ったり分けることができやすくなります。

アイデアは空間より繊細です。繊細なものは粗雑なものの中に遍在します。

自然のプロセスでも、繊細なものから粗雑なものができます。2つの水素の分子と酸素分子が結合して水になり、精子と卵子からより粗雑な子供ができます。

炭素は地球の圧力で長い時間をかけて、皆が利用できるダイヤモンドになりました。

分けられない空を、哲学的に3つに分けて考えます。皆の知ってる空、知らない空、できた順を戻すと空は空間です。

空の概念はこれで少しはわかりますか？

繊細なものに戻すと、繊細になると同時に、広い場所を占めるようになります。水は土より7倍広がり、火は水より7倍にも広がり、空は火の7倍に広がります……。

土の外に水があり、水の外に火が、火の外に空、空の外に空間がある。空間の外に何がある？もう一つの空間がある！

自分の頭でよく考えて、おかしいと気付いてください。

心・プラーナ・感覚器官は協力依存関係の3対

心はアイデア、粗雑な思考です。
プラーナは振動です。この3つのいずれかを止めれば全てが止まります。

車で走っていると、町の看板は読めません。
止まれば読めます。

瞑想すれば全てがわかります。偉大なヨギが、瞑想から発見しました。

心はアイデア、5大元素よりさらに繊細です。
ありとあらゆるところに遍在しています。
3対のいずれかを止めれば全てが止まって、全てがわかります。

Never Ending Story, again

全ての話を理解した時、理解すべき話は何もないということを理解します。
(全ての梯子を登った時、もう登るべき梯子はないことを理解します。)

まとめ

心で制限されたアイデアの空そらと、基本的な空があります。アイデアの空は基本的な空より大きく、気付き(悟り)の空はさらに大きいのです。

気付きの空(Awareness Sky)は心やアイデアを超えた気付きです。時間・空間を超えています。それが(あなたの方)本当の家です。あなたが帰るべきところ。探す必要はありません。チダーカーシャと言います。

【Chidakasa: 制限のない知識、限界のない知性という観点からのブラフマン。これはウパニシャッドのお馴染みの概念です。物理的な空(イーサー)に気付いているということではなく、純粹意識(Chit)とは、イーサー(Akasa)の様なものであって、全てに遍在している連続体のことです。: 出典 YOGA VEDANTA DICTIONARY -Swami Sivananda-】

自分の存在に気付いています。究極の存在は何処にもかしこにも存在して行き渡っていて、あなたも私も何もかも存在しています。あなたは自分の存在に気付いています。
存在を身体だと思えば(身体を失うことの)恐れが来ます。

存在・実在とは究極的に何かよく考えなさい。

言葉を使つての理解には、裏表の二面性があります。
(これと思った時、すでにそうではないものがあります)

言葉では理解できません。静寂の中で理解しなさい。

あなたは自分が存在していないと
いうことを宣言できますか?

「私は…」と言ったとたんに、あなた
は既に存在しています。

POORNAMADAH

オーム ブー (ル) ナマダ ブー (ル) ナミダム
OM PURNAMADAH PURNAMIDAM
ブー (ル) ナー ブー (ル) ナムダチャテ
PURNAT PURNAMUDACHYATE
ブー (ル) ナッシャー ブー (ル) ナマダーヤ
PURNASYA PURNAMADAYA
ブー (ル) ナメーヴァヴァッシシャテ
PURNAMEVAVASHISHYATE
オーム シャンティ シャンティ シャンティーヒー
OM SHANTI SHANTI SHANTIH

Om That is whole This is whole
From the whole the whole becomes manifest
From the whole when the whole if negated
What remains again the whole
Om peace peace peace

目に見えない世界は完全です。見えるこの世界も完全です。
完全なるものから完全なものが顕れました。
完全なものは完全なまま残ります。
平和でありますように。(3X)

